伊地知文庫
文庫20
217
1

安言抄 上

伊地知文庫
文庫20
217
1

無言抄

文庫

伊地知氏書斎

安言抄巻上

ものとなりて海士乃子のあれ
ども人をもとめありきもし
はて濱やあるとも乃海士濱
乃真砂とかぞへ盡すこと一
見なり　たとへばみ
ちをもとめもとひもとめん
山おろの葉をとうねわつむる
ゝ古人言行の義意思
へいう紀世の義理御りゝ
のものんとすゆゑ人ゝ
ばを心あれをやさをを

あるハ智決心水ゝ新
みゝとなれ
れまゝ
情といひあてていさゝ
いさゝものゝ
ゝれと言葉
むもゝ
さゝ
ゝ志ゝ

和寄せ事

一　式目遊觴
二　以長波綱

三　四季詞
四　水季詞
五　祇抵
六　釋教
七　述懷
八　哀傷
九　山類
十　水邊
十一　休用之物
十二　ゝ隔三句
十三　ゝ隔五句物
十四　ゝ隔七句

十五　一之面う嫌地
十六　漏れ
十七　嫌河の事
十八　この思惟う
十九　教白切され
二十　白教うう
廿一　中哥取撰し事
廿二　孰墓れ事
廿三　一廛法度の事
廿四　禽雪席他法の事
廿五　和漢篇

一　式目盗觴

史連欲根源ハ仁王十二代景行天皇四十年日本武尊東夷征伐ハ河甲嶮國酒折の宮にて新治筑波の紐ハ忘れぬるかと抑本式目元亨ハ建治二年より嫌禽嫌官にお并て為相卿の述作なり其後新式目ハ大納言為藤卿の作也然て後普え國括政云應安五年ニ

改め被書かれを新式目近
かと号し又新式今案とハ
後常盤の園白殿下法の
妙士の規矩を集て宗旨
法師と相談あり此時古
宗旨まちまちなりしかゝ
いつり事法元年小書紙墨
心敬宗祇ホ遊去乃後毎
歴友津論京変ホ来侯之為
亀二年ヨ宵相老人勅を
うけ奉り殿上ひろ
ひ書改む今和歌用

法新式の一冊元や

景行天皇　四年より天正
十年　九年まて千五百

後宇多院御宇　建治二年より應安
ゐ年まて九十七年

後圓融院御宇　應安ゐ年
応元年まて八十二年

後花園院御宇　亨徳元年より
文亀二年まて五十一年

後柏原院御宇　文亀二年
九年まて八十年　より天正

正親町院御宇　天正九年

建治二年より天正九年
まで八三百六年

今上皇帝　慶長二年一
月清書

二　いは

岩渡船

岩船　天竺神國は神の如
巻ゑ天般若摩訶
月　　

伊勢の神

いせ　さ丸宮　伊勢の神文賀
　　の神院何も

敬生　世生新二白樂八幡
大愛隆の祈也　天明
中に夷歌を打ぶらひ
家勝を經長著る流水不池
奥のうちにうたれ
いとしかわ　天明
屋根の命行も三日ぞ
らの宮ホの
中ハ祈願
こ風
ら
りの也　いとしかわ　祈也
なとつ
松竹　祈る
家をいのる　祈願

いとうの元
岩木
岩橋
石清水
池

池
泉
夏池
八雑
いはの
衣裳の文の花木

色とはいろ〳〵の色なれとも〳〵
又紅葉錦の色をいひ
きらふなり
家風　きらふ山嵐おろし嫌ふ　難は
いはまほしきといふ家の名也二句嫌へ
しかしながら風ならいかふなら八
同字なれとも嫌なる折嫌にて
其らかなり
いほりの如し　嫌なり二句去り
嫌ふまでもなきことなれとも又
読むへし　庵　二韻の式なりに
いはゆるといふ
二月とおもふことを代りにひとを
とゝし二也毎ふしに用ひられ
里と二ハ
ゑし　抜間　嫌なり　二句嫌也
嫌ふの詞にしては〳〵かくしと
いふ読むへし点抜さしくらしうす

入違　は入のまゝ詞のまゝとしろ
二句嫌夕のまゝ葉のまゝ
をり不嫌とらは読悪し嫌
ふなり
市　一かたなり一句の
難なれし
いと紀のまへ　をしまひ苗をと付
上りを如此の難　ろうすふ一座の
可分別なり也
いま語　人倫なりにも精のまゝ
りを而ときらふなりと
いそり付るとをきらふなりと云
読むへし
生類　二句嫌しかしをらにおちたに
しかりなるひの
個ふおくに短そ
いおちおもそへて又おりの趣し
志ろしは二なり
命　一鳥獣　ゟの類

いみし麹　まへ一句隔つ文
去りにしけれと
いたはり
偽り向こと
いふ絹二句去　二句嫌也
らふ麹し
うつりかはるものなれは何も
もすそ一句去の麹し
いさよひ　付合そらかし
うかす　他准之
いはくや二句三ッ隔ち一句
とうへてはなりけれは
二川の間に　いはく　ふちのそ
折と嫌之　いいとも
みかん二句去り也　かほの間
なといふからひつかくは
いはし　一句　なとて絹たく一也
まい晩とうけたと
嫌へし　あふのまつ同しく二句
いつ鯵ん　なと為りの五句
何もまた　一句去り

とゝのひにてうかくみ一句有也
准之
いつ山せん　上のありしおく
此山をも麹し
いはつ　五行の事二句嫌也し
きつかすと云流れしく
いく　五行の事付合と嫌也し
折鐵りかうしらす
寅日　まへ日次の日二句嫌にこれ
日つけまでも勘かこれ
ときつ　いよ　あかつ命又言を
なす　てふ前とのても
也も約等いはきも二句
きらふ麹し
一文字　乃事かそもくく
八まん余のかすま二三
よろ此下かうに一作とらへ
あら川こう有もひらくかお
かくいへとらう二川と云
三月あもしらひかくおう一

[illegible]

ろ

ろ 雑部の雑ろ

は

葉雪の雑 拾遺ろ 嫌ろ 雑ろ

花 にろ三も不岩と[illegible]ろ 二三四ろ拾ろ

[illegible]

花 仙 雑部の雑ろ 拾遺ろ 嫌ろ

[illegible]

花 ろ 付ろ 風 霞の類ろ 新

[illegible]

みあら雅[illegible]
[illegible]の他准し
月の宿何も所不定花こそやと
なしは花所ありあらしの花
白雪のふるへし

花の数

のちの八月を嫌ちらあり
きうら数なしはやきの
[illegible]の数 梅 桜なと

花の宿

[illegible]の数[illegible]
[illegible]の[illegible]
他准し

はつ花

やいの流[illegible]花のけも[illegible]
[illegible]の[illegible]
八花のけ[illegible]
[illegible]

花の香

[illegible]を嫌花
[illegible]人香

なしおりてを嫌へ
人倫也但可係白拍子ちゆう
せ[illegible]人倫[illegible]

花をあかし

月を反印
く地人倫

花の枕

地除地あまの
人の[illegible]
[illegible]

花の雪

地除地
きに同界の野
なおしこそけ昇[illegible]
うたかのり

はつ花雪花の波

の潮 [illegible]上この数[illegible]
八拍地[illegible]地水邊
何もあう嫌と[illegible]
[illegible]の波同界[illegible]

それのちら新をといへハ花ハ植
ものゝかさなりもなしろ
ろ愛師統 花ことあく
とのあり
す梅句 ふ野山ととおるといひ
ても猿りあれはさ
とひ猿とりいふ事人をとあれ
作らひまく花をとらて家
らそれかるとひ 花 これ作や
あり くらふ
あとる二句嫌とりの統あり
おもと嫌へ御れハたれや
うと云何正花ならむ 作
可依句とりてり
花 およし野付る事 嫌也
花ニ花ろ見撒聖もみちり
詠因同 はるの部
本あり 正花
也 正花りありはと云統池し
とと代人ありひ如せる統也不て

用し
花乃すゝにされ
の袖木 植物也 正花也 作句
新ろりよろしみりと
いそり花衣 正花也植物ろ
二句嫌へし
衣裳のらに非也桜れハされ
のそでも同おろうら
花はら 正花也その故ハ捧ハ
常の事也 式也ハ
真時花くのちまとさし
為とのや
ちるか 発句脇第三の外面ろ
せん打りて只嫌りの花く
り追と一の折ゟ下るのろされ
恐しなとらて統の中統也
なくふし 花野 ますろ花
かゝす 花宴 なとのや
うたふ俳付る事あしくかし
のん植物と申ある組し

葉ハおもと成て繁りをいはしひて五る
嫌ありあとさへもいひく
ハさるり一句 葉のまわを ぞよく
ぎらひ候
もの名ハ木の名をかはねまの
葉ハりかれるすもの嫌ひ竹
の葉ホハ又も古也あしらへ木
みハ松のミそし用ひ面と嫌
せりかしとおもはれハおもとき
らひ候ふ

春の月 是ハ一句明 一三日月
一と新式にあり
り也よりまミ乃よの月をそ
いひく一長閑なりと明なくに
こかく一三日月の名すむなといひ
ひと以上三也夜の月名の月
月あるなりとも不なりわやま
思仲りなりて冷え明嫌り
一他季の月一以上二なり三日月
は四季の為に季して一なり一座

なり三句の物の内よ入さるハたる月
雪花明と三日月と三様ニ分
て一季なりあ所と 春乃宮
いふ也なり
めしらりまとる心これらの也
式目なり春に有るへきなり

春の月 とふ句にもなり花心似
らく永日ときさ句丸
りおもと可嫌梅の花も同前
志られとも句をよりへき哉

春乃雪 さて花の雪なと
有へうれとも中
古の儀也今ハくるし
うらす

春の梅 春ハ一春乃風の
もしをへて又と
わまてをも代いひゆうり
とよりすニなり梅の句松せ
同なる春の風とのりと入ては
二なし梅ハ移りなり移と

橋 一名御階

[illegible]

稿 [illegible]

[illegible]

原 野二百畝 松原也

[illegible]

濱 波のよせくる所 形のひらけたる仙

[illegible]

字なれども付る　はりう
ところもあり寸
也にたゞもに百韻より二句より
なりうやうの詞もいられもきれ
涯すん　もり　ゐそし渋
おしえ行までも一庵　なもん
に二句わかれし　もりむく
ゆへに秀利為當なりにて　なく
文列のきみやうそのはよ
る去　きられき　只一点に
也　　二とわれ
ともいゝなのふとしても二句あり
雨し　血代この數抄わし
謀ものあに云ふと二るき
らふ畑し　三られみて八なけき
もうり　とも物して　ともらふ
なりはや　と云ふともにそ
ともやも一句不認

そもらふて小さとは小ゆともあり
八おれとりてりしきか八
才但他と書般なり　もとゝ八
二る嫌なりうそてし　以式の
てみちども漏きえみゐ二るき
らふ
なり

に

贊　せ數よ二るきらふなり候る
非祇うわきうろるきと
のりや贊なそらふゝのハ文列
のまゝ也
連歌　非祇なり名なり連
連と神もの句折と揀なり折
ともふも立る去や　抛う
よりて折へきへとも折かゝ
りて二る去もなくし

庭ハ一寺皇居のかたより一庭
八ハ名所のすゑなり
他にその前にたちしらふ
故かりかとらへ竟し
庭れ清き山 山数より二百き
らかれし
八十川ミ居所より二百姫
やし水とりよ宝
うち二 鶏 此島にられ出
日あり 宴しらりわかの井
也异名八中院け并てさうけ
なく引おち松て二てらかた
まし中かりま代用揃あ
おとも花
八日の海 水うとれ恐名なう
名尓集り近江
の名所の中へよ成り名
所より三る対らへし
白ひハ香西をさらし鶏しそ
りしくハりの所に納し

八路もみち花 おも面り揉
嫁やしられ
きりしの
所り入 似物の数ハおり と嫁
ものともおもてどうへてあるやし
まさへハ宮おりと嫁とらへまとも
卯の花の宮此とらハにある
おう流なり 池涯し
移り 紅葉材へうれあしき
おうれ尾をと同めく 伊へそ
花もみち嫁やうくのあまくれ
ゐるかハりしの所ゑ御し
同るりと当所りも三十所に
のれハりしのえんに記うれて
まうひ易 八とありよ
きためなり 又にに
くともゆ物ハ一向毛とさう
ゐす
月八とあり ハ花のこいの細
月前下極也り

折あひなしにさく所しら
らず
めでゆきり二百去也なで とかりの上
うろくとくさのまちところ
られ此類なり
か
ほしやにしの 難なり七月廿日 作刈見え山まり 星とされ
星に比る名
かりやなり
かる 帝王の元正の魔鬼歳平 星とし拝しまへ出るに也 星とよむ
程下書り 御しし 星 月白して 三百歳
也日次の日月比の月なれ
二百なり
星月夜 晦也 月のなきハ名るさらでし

郭公 一かくしきのるてしくして一以ト二三るしの島るてさてのたなくしるし
対馬う流しきなして付ましわしれわひるハわくねし対岩相違なるゆへあらくれしれのあ新名の返
蛍 六一所ゆる氷辺にあれ かた
冬なり庭にや ほうに
やわりハ名称うかしほさのかぞへなしい人ハ名帰り名や
むとつのい野へ山邊るての息のや二百
きらふ 晦し ほのみして
そしのかみて云納百談う二りうまり他准之

へ

年を経て　年ふるし云詞なり　気をへて年といふ詞一向気をもちらず　道乃意
其しの意をわかるべし
二句きゝよく入へし
也

年の明　あらたに明の　まにみる嫁冬や

年　二とせ一とせしといひ　又一とせしらひて

年　二のうちやとしや云　おもしろき世へなり

年々句　年ゝいはひて　年を付る
此句同意也　このするいふなれ
此句異也

年暮て　としの暮　差々紀　同意毎度此歎　しゝ句ゝ此へ母親し同じの事　下巻にくりしく沙す

遠里小野　遠里小野は摂津也　摂津なり　あるとも紀　あし摂津なり

戸　窓也とかそ　実の戸　岩戸　ありしのあるおとを替る也　せけし宮の戸あまたの内　むかへしらへくもとけしは　世の事なりへきよしみ統まと　統は又世の事なり定す天の戸は摂津なりあれし　名所の事也

戸　よ窓乃とけし事し行きし　ありてとさしよろしなり

戸をあくる　ふ夜の明ら付る　ゆう嫁やたく

のわれ
不うを寒がす

戸をたて

白おうを
やすに夜ふかう眠す

水鳥 居不うを也

とまや 水邊うわ居
不うハみな白鷺や

笹ひら舟 物ものにかに隆
山鼠

付うみな
ひ鼠ものう

さけ 井ものうとり
狗西

角ものう

友 ひ一鳥獸ものう一月花を

友ものひ人倫
とうゆうとも說われ又一者う

水と縄 之とうなのまを不嫌
とうひ打越

きうらう

虎 ふ白ものう
ひ一ものう

兎猫犬狐赤の
狐の類みな百獸うの一ものう

鳥 ひ一ものう鳥一ものこの外こうう
付うものう一鳥獸と

いひて一禽獸ものう獸の惡名
ものれえもうしの鳥ハもとよ

り雑もうひ禽の鳥ハ水とうも
和名ハ鶏や山ホハ名ものう物

ものうの名ものうもみ鳳凰
血白ものう

鳥の鳴 ものう

を嫌ものう 鳥の啼 よ鳴ものう
他準し

なうこものう付白を
嫌ものう他準し

白鳥 ものうものうもみ白
云也同ものうもみ白
ものうもも日ものう

ゆきの羽子勝　式子風　祢さゝし
鳥うちかゝりおりてさ
きらかへ戒ら
鳥の無縁　雑する風としては
行きも知らに
あれ　鳥しの聲
なくいふ詞其數ヲ折紙を
嫌也取らいをかうハ五句去
あり他　泊舟　所ふに嫌
准し　前よりかま
うハ五句
ことふや　ゆきまり
水鳥なり舟なくてハいとと
よりゆきさらになるなれはかり
の事なりよ嫌ひ山なくしハも
ゆきかりの秋名所の事也
将の事
あれハ也　灯　只二種の灯
一法の灯一

おりとかへて以上三や五句去
あり行きも折とさらふや
ひかる火も折と嫌なり面と
えくらうりくはと云なり
わし又この說あるへうは
蛍火秋地うちゆへうかりて
とえくあるやしとらうこれ
理らう可治定同事と云
迄は他とふれとし　破邪顕
正のまきめや
ゆきまり　友なきり
所ふや
うきよといふまま去
へうれ
遠き　諺
よとらうらくもうう
二句嫌なり遠きと云
事ハ又る　ゆくもするいう
定
去なり
るまし行るゆあし同事
や他准し

ち

ふ早振ふみの字うつり可嫌ふみ
振のまゝ
へきうつり二句うつり嫌
千のやま　おもふ一法也依月
異法花受師
明師指南者や
ちちうつりふみのまわりの翁
ふ柱うつり不苦ふ付へうつれたる
草にくみ金ハうつり
ひ　ふ里　とうつりの長不うつり
路と法のうつる七句五句
路と法不嫌只又句五也
路と道ふみのうつる句五也但
心うつり冊法うつる久

路と道ふみのうつる句五也
みうつり二句さらう也又法
路と法ふみのうつる句五也
路うつりふみの道二句嫌
ふり

路　一句不嫌　苦地　三物地
心うつり用ふみのうつる付物
うん中用捨有へし
ちまつい　二句さらう也二
句さらう
敬　とうつりふみのうつる句五也
不苦記のうつり
うつりふ付物
ふ　入　筆の穂　立て筆
穂ふ有へ
ふりちめ
筆　一ちりの世ふらひて久

契とハかゝるたのむむかしよりと
ハ約束りしすゝれ元
依る所付ちやみえし人ハちれ
思ひ絶行ちむとのちうるきを
いふたのみてまつる約れ
とハふるあしたのかもとは
くし物ハもりありといふも
のかり申しあれほどの工夫
ふらし心あてつきしいふり依
せうあるとてハ今のけまいこと
なるくし住てうるのさる
川くれうるの示す心ありのへ
うゝくのあそしと也たく恵
西は月意のえなる目此なり

り

りら北志ゝ人　梅也理文生歌〔?〕時流水
りうりくつまりいとう
輪廻なくて〔?〕有へし

ね

涅槃　うれしりまつこれなんとかゝしなり

ねがひ人倫わうれわりし
心しい人ハ志ん〳〵なり
ねる佛二つ縁なりつゝく行なりしあらハ
きわもかうしきハきつれ
心し元流也なり
ねたくまちしふ約なりと嫉
と嫌いあしねたふ
そが川面と
縁なり
ね為秘なくて隠物ねね
為ゝ心まそそうて
意の心あるハ深き一方不縁
しまう秘とくかつ為ねされ
心いくあひあう間り二方
さらなる佛二つ隔てる

わるひのよるのはのうへ
せに
俺ねる　かゝ云わるゝと云詞ねるとく
ゝ云ねるゝ二句煙ねまとくのる
なり　ねるとゝつの　河　みねまき　山号
二句ゝり煙やうゝ
河行もかのゝ
ねのねゝとそゝんねゝとの
付句ゝも不煙又ねのねゝし
をゝんねゝのゝるゝ行あひの
ゝゝにゝゝねや一百ゝ二句ん
ゝのゝゝゝゝのゝゝゝゝの
作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ引すき
ゝゝゝゝ
ねのねゝねのねゝ　のあひゝ
ゝゝ煙句ゝ　をゝ付句
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女

親

音

わ

我君

若葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

加

祓 [illegible]一祓代一名祓一とも
[illegible]て二 [illegible]

[illegible]式

祓楽 [illegible]

祓殿 [illegible]

[illegible]

[illegible]

上 [illegible]

春日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

蠶

貝

門

首途

頓

隱家

杜若

杜鵑

[illegible]

[illegible]

田 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

鷹乃坂雲

二百題

鳥

撰集

鶴

撰集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫とみて

新　根なし草は植
陸うい根のなき姫とらの流
風　うの野分こうしゆれいひ
ても立る姫なりおのひ
ひき蔦のしらみ二る
姫也

この歌は姫ヤ島は羽うなし二る
風神にうこそ
可姫しう

所は紙綿　ゑ也衣新
うわれ
夜分也下表
姫を

かうへの人　といふ
姫やらう流
あ　ものなき二る
不姫

ま　うしかりてもう新
うしかりもきつれ
言　うかうしてかうこうて
なしみうのまあり
分湯立る
姫し

くるまの行らんなき二る
きらんなり事　岩根衣ホ
行數　行きとかうこう
ても和ら
うり

かうれまれうれなし
れ流ありうり
姫きらんなし

かうへ
まう二るきらんなり
うへ　北意ふ離ふり

一切不可有混乱作て不の
事なれども悪流とやうう
へ成さるり　[illegible]
ハあるへう事歌うひうるハうさ
迎

雑とい云ふ[illegible]ていれ
[illegible]云河組二百可
[illegible]おもてを極へきに治定
せり

かりき　一度ゟ二あり
[illegible]

同しうとうとうと

よ

代 二ツ六ハ弟代一ツ代一ツ
ツ代ハ外ノ御代
ツ代ハ御代也
大君ノ御代也

代よ世 五百ツ世也
あらく代なること
代なりようあさうなる
ハ代世也

世ヨ よ中といふ也二百姓
へし

世に隙こそ人のなやまるる也所詮平
世一代世と云も同ジ意也 遠樟世一ノ
世ハ花盛なるといふハ平世
なり後世遠世ハ速懐の世也
前ノ世後の世なるハ御の世
なり行も折ふしの世也意の世ハ
行きのうになりしく

紅れハ月合こ
世なり

葉門 人選よこなりよすて
人ともうり世を教人
も此のまのてハ世を教人
書なり

遠ノやとう人物所不安
遠生 居所ニ百姓也
きとうり
所うれを
きうれ

よもきよ 浅茅生ノ所
ノ世ノ所
と姓也百姓ニ
あ白へさう

鶯ヨ鳥 妙法
鳥ノうり心ヘ
ノのり

[illegible]

和と結び　何よにあらん和とも

夜のあくる　夜の明けかたもはなれぬ

いくとせ経とは　三百めぐりにくきりのあり

又心あくもあり　又はなれぬ

夕よの月　なりそのまゝ

あらの事一万数　あり人数事也

和のあくる　分よあくる時

夜半　百数　二わ

霜　何よにあらん和のやうに

きらゝかなり

よかくも　とかくあくる常

和の事也

[illegible]

横雲　和よりやひらにいく

中よりあはれ

ゆくゑもなれ　ゆくゑもなれ

へさき事也

よし野　花ゆく花也

野ゆく

百事あくる

もの也

吉野　よ船あれ

みすれ

欲すへきすへ

吉野の国　栖　人物あり

定の門　八橋あり　その外の門

[illegible]

よのうひ　他白二白可燒
不燒しむのこと
を不告
よそ　一説又一説
他準之
燒原目　たくみ白二白燒
ハ又の中を不燒し
まこよまて　二白きらのより
みうのこと
おなし

た

竹乃宮　亦紙あり他白
よりへのうへ
うへものう

竹の葉　亦紙と可燒
者に糸をけ立白燒や
用りけよすけ三白
燒也

亦　よはくもの
やちりのうへ
亦乃中也用立白
燒ものう

竹の林　竹林舍の中に
うけのこと
可用五白云　他うけう
亦と竹　うへの内海七白へ
こと里ものへうけ
白燒白

竹　竹の麻義の河恋
中うう他麻義を
ハ三うひこう
云事也　衣はれ

[illegible]

玉 [illegible]

玉のどうなりしなどの命二白 [illegible] 人の玉れとを人のうみたりを [illegible] 腹の玉れを [illegible] 腹の玉のをとこよりとくこ [illegible] 二有やし一白名別のすれ [illegible] をつくりの [illegible] 玉の [illegible] 又西行法師の玉のを柳と [illegible] 心あり [illegible] 玉

憲乃庵

[illegible]

命に一あり[illegible]

玉章

[illegible]

視

[illegible]

敦

[illegible]

田

[illegible]

田

[illegible]

田乃庵

[illegible]

田

[illegible]

大きなもの

[illegible]

田鶴

[illegible]

[illegible]

たのむの鷹　田のむらの七日姫やし

二日とうの流れ

付たり　紅葉　鶯　物

[illegible]

立田　立田の山の中に二日姫あり

[illegible]

彩田姫　[illegible]

[illegible]

彩田　彩紅葉　[illegible]

付たり城野　[illegible]

[illegible]

高野山　弘法大師の前より

[illegible]

高根峯　嶽　[illegible]

折り姫　[illegible]

立日姫　[illegible]

高根　[illegible]

[illegible]

高雄の屏上　[illegible]

[illegible]

高砂の松　[illegible]

[illegible]

[illegible]

他句ともかく翻訳に
可依句と唐書の先人
年統を中と
すべし

瀧 呂一名ハ瀧津瀧と一
瀧の瀧嶮のごとくあるの
うつくしかりをきらふ或のた
やすい心なるべ
句

澱 山澱うてい用ゐられ過
うい詩あり澱津澱とい
たきうの澱の年也山澱うの
らす澱河澱つおいられ
山澱う他す他たきうと平
い山澱のれかうと受所
流沖津すくいい心也也可用
し
澱よをとの人の
あり所なり付う年恐

先用行して方おうきうに
うありをきうにたきと
うう

たかひし 家用水
上

七夕 夜ちの星ハ
句うあり星ハ
姫なりあうの月日
年のうちなり天象
うに句姫なりう夜分に
ハ五句きらいへ
七夕 うあうの月三句
ハ六らいあり
猿の妻 夜ちに
ひく一猿夜ちに
いひうあうう一猿近代
二なり不及
かさひ 二の外うに世のこひ
なうひ又ありへきく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

薪　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくして自然にまかせて法性にいたる義
漸々絶学なる条別の事也
三 [illegible]二自性
たとへば 小道を大道に比
自りをさらす
他流し
弱者 [illegible]二自性
なるに依自新義
八宗ひとしれまし也
たとへば [illegible]
これの心八弱者に不極上
大乗世ふとり[illegible]院也
不設むる[illegible]
[illegible]二自さら

[illegible]河の[illegible]二自
[illegible]
日前
たとへば [illegible]河二りり
[illegible]八い作
[illegible]
[illegible]
[illegible]

真曉 西行

天 何と三の月

庵雲 庵雲

外面 外面

圓雲生 圓雲生

軸ね

[illegible] 露霜[illegible]

そてはの袖の露霜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

森は花所なり所なり花は所

月

雨は一作に八月は花

鶯は一作に八月は花

月の半ばは人の

多くは新式は春は

半は一時は一三月は一

の半は時の多くは

式案建は式自也不能

夏月は一作に建は

月は一作に三月の

月は二月は二月は

四季は一月は

紅は花一季は

月と三月は

同前は三月

月は三月

他の季は月

立白は白

不可

月は日次の日は

月は花の日は

日日は日は

又日は新日は

月は月の月

三月は

月次の月は

白梅

月は

不

月は月は

月の雪霜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月新　[illegible]

[illegible]

月[illegible]　[illegible]

[illegible]

月草　[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶴林　[illegible]

[illegible]

[illegible]

山嶽のごとくなる新古
ふる打越を踏みうめ山なる
河ゐのごとくなるふるとしつゐ
又有十句他准之
雖渡津のつりにわたる
奥はなるこの花も
しら波のごとくいかりなき
あるこの物のりの白
去也百鶴の二中
やどりをいかるとられを
鍋の船
舟の船鑒水不踏し他鈍
知られて海士人の浦こ
ら人踏十句秋つ
白もたくなる
いかるとられる鶴
しかりすべき
事なり

陸の紀舟　他振を外他振
き舟の揖を　舟取とふ入つふ
てし他振　てなりし
陸のて
きろふなとつ
事わり十句他
准し
露の玉て
し分論紀ふ
ふる
陸のろ　歌
す紀ふ宮つへ
又有十句他可作者
序乃切者しろ可者
ふ的事　書　とわろわ
也　妹なし踏へ
つ末
乃新

[illegible]

之 他人編广大和とのつゝひ
侵 を世[illegible]わらしめへら
つまく [illegible]ひ[illegible]而を略
[illegible]
[illegible]れ [illegible]れ[illegible]れ[illegible]れ[

絲瓜 夢二白蛭ハ
絲瓜のうら
絲瓜 絲瓜の外面連絡
脇分三
世と絲瓜の
わきとの
なくしたる
倭蛭
仰
眠 蛭みう
うとうとねむ
岩根 岩根
きらつ
岩根 岩根

な

なう非 非ハ成ハ長非
世書云又中非
雑波 波ハ多不蛭
波乃花 波ハ花ちう
心ハ花也
如山愛師 牡蛎
ていハ花
うへ蛇
波を花
ていハ
波乃雪 波ハ雪也
牡一撥 高蛭
可混合物又蛭

き酒ハ不時に飲こゝき新武
乃河也いつ心ハ夫に混合
すゝとはいん人の雪れあこと
ゆうゝをくいつゆうゝ
てあるゆう混合
すゝとゝゆう
波乃露 ゆう酒也妹ゆう
波枕 舟をもとゝ枕ハいつ
ゝとにてのゝ旅ゆう 櫓河
なゝゆし
篠川 丸花ゆゝこゝゝ
何も波の雪ゆう
山白縣ゝとゝ
ゆうに
ゆうれ只一ゆゝ一ゆゝ二
ゆうゝ勝のゆうれ
れ雪ゆうゝ
有へきゝゝ候不調

ゆうゝれ関 山ゆうゝ
ゆ島乃ゆう
不ゆう
雜波 ゆうゝ
なゝいれ鳥
きらゆう
過ゆうゝ
ゆうれ来 流人ゆゝ
ていゝゝ抽酒
ゆう二白縣
白ゆう
ゆうけ黄れ年 ゆゝ以
ゝゝゝう
抽酒二白ゆゝ
ゝゝ抽也ゆけゝ
こゝ新ゝいハ抽酒ゆう不姫
ゆう抽酒ゆうゝ
菌代 ゆゝゝ
ゆゝゝ
抽ゆ ゆゝ
ゝゝ
てゝ有へ

五十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるこ　如式の数百枝
の冷紙　一名紙
いきらし　紙
ありり
かうめ　二句
寄せ
ひてこの絲
絲　五目不嫌
二句嫌
不嫌之
半天　半
中
二句嫌
波　一名
二句
中
二句嫌
嫌　人偏
中
二句嫌
命　長永の字
二句嫌
不閑　閑の字一切不嫌
待　別の字二
句嫌

[illegible]也　[illegible]の字[illegible]
[illegible]
[illegible]の字[illegible]
[illegible]
[illegible]

ら

らしゃらん　白紗　二百嫌者
白色を姪へ　向色を姪へ

らん　ゆきるん　ゆきるん　ゆきる

[illegible]

宣乃八潟　山数[illegible]
水鳥[illegible]

むろのもやの野　[illegible]

[illegible]　梅　此一紅梅一名
末一名梅一
紅葉一名梅紅
紅の事[illegible]
式の内[illegible]紅
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

梅花

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二也 仍はたのむ [illegible] 上 [illegible] 恐 [illegible] 席 [illegible] 同前

馬 一弱一ツ上 二ツ打 [illegible] 上 ゆゆしき也 驛馬のうれしけ
ハ面を繰る意乃馬ひき
ゆく駒 [illegible] 意乃馬ひき [illegible] 馬
おりを 替 [illegible] 馬 [illegible] 乃 [illegible]
る車 [illegible] 地 [illegible] 他者用 [illegible]
わりの [illegible] この心 [illegible]
[illegible] 概 [illegible] ハ
[illegible] 引也 [illegible] 者
[illegible] の事 [illegible]
[illegible] 地 [illegible]
[illegible] 連

欲ハ前後 [illegible] 意乃恩惟 [illegible]
[illegible] 欲之

馬場 [illegible] 馬に [illegible] 乃 [illegible]

きらふ [illegible] 同前

驛路 同前 [illegible] 數 [illegible]
[illegible] 驛路
[illegible] ハ唐 [illegible] ハ勅使 [illegible] 道
[illegible] 日 [illegible]
[illegible] 乃門 [illegible]
[illegible] 驛長也 [illegible]
[illegible] 詩
[illegible]

一扣 [illegible] 上
三ツ也 [illegible] 乃 [illegible]
多 [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海乃恐品は此心なる海乃
おりを姫なる弱弥吉
まなるれ遍まてこく
可姫打なりこのり
きるとよめるの弱弥なり
ちちこの服さるとあり
為ハ海なり弱弥のこと
多所とうこの手加
ちちうこたく一なりこの
くふまこの系みわるし
也さこ公弱弥うつへ
光まいこと公弱なり

うれつ　ゆうなり

桂図　うへ物こ打銭を姫前
図なるとも図前

桂　といふ字は芽まいたれの
上こてなりこたく一
なり

深才　うへまれり
あるは

蕊　おうこ
ちちうこ
ちちうこ
ちち

うき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人見わやまうもれなり

ぬ

雲井　と和の字にてくもゐとのたゆうたゆ白雲のうへ心あるうたゆ

大井　よろづ所所にあるわくなり

井世記　よれせくるくゐの字也世の河いひくもせりの所也百歌うたに只一也

宮守　井のもり　井もれ二句きらい守ありと也へ字也

緒　百歌うたくのうたに一ゐり離也何と一度うたにあるうあり

歌の字よみ事　武用うしは　象今用

うたうたれて新武とうたうたれて同ゐを
のうたて和名宗とたとみくたれ
てあるうたうたれ河とのこと
あるうたうたれ河とくくて
あるうたうたれ河とくくて
武用ふあんのやう　あるう

武用ふあんのやう

所うたの名とうたうたれ時ゐうたの
の半あるうたうたれ名うたれ
やうたうたれうたれの半
やあるうたうたれうたれの半
日前あるうたれけるうの一而名
部のうあるうたうあるうあんふ
すうたうたれ付句とく
句うたうたれ名のやうあの
名の数あるう

歌のやう

[illegible]

一切うち近代これを

顔の字 ありてを姫に地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鹿山の志賀
極楽
さらしなの
のちの世
ちかく
一ちの
ちの新可准
聖
ちの用を行ふ事不価金
如此の心ちの
如此
鹿谷
此ちの凡ちの天白野
二白姥
此ちの時分
ちの人の
如此のちの人の
ちの也
ちの
見のや
此

のやうにてよしを
法
佛法の外ちの
中し佛法の法をきくに
佛法
二ちの
二ちの
法
ちの船
ちの付あひちの
ちの八用
姥
ちの
二ちの
ちの
ちの
新
ちの志賀
ちの志賀
ちの
ちの
ちの
ちの

折の玉水　りくてうの地除　和れ遠し　地をうへものれる
折れあやめ　せ
の夫うひうきうかう和せ
さらうよへし
長岡うきうきうかう三白姫京
かう二白姫
姫あてうう
又
みはう　上代
きの二白姫うへうき
やうに同　ゆはう
三うれうう姫京
ゆう
物初のうきうのりすうの
を不姫し
なうば後ゆうれう寨のかう
ゆう

老　兵一島京きうに一ゆ上二
きうへ
老　うの白髪既の雪をし西
をきらふのう
老　こむう
ら京姫とゆうかう
ゆうかうのあやうう
初の京ゆのみしとゆへう
ゆうやうゆ他うう
てううう
ゆうのうなるれい不姫
ゆ用捨する
折用　九の
述懐の三白ゆくうきうにうれう
ゆへゆ
老　うの京きあ姫られうう
ゆうあいきうう
老　うう後の彼雪おまきの足
のうけをうけうきうう
乳ある姫
ゆう
老　うよひ二
白姫
老　うの前二白姫他依白新
不姫京とゆうきれうあひ

の篇はとりて半蛾くだせり
ちなみあり

二句きらるべきさ
ちなみあり

親子

未述懷
ちなみ

人倫
也

男

一又独男とらひて
て一たつれに
きすすれてもひてみるあり
ちなみくこうあり面とは也

鬼

千句うもたり一也中巻
姫之出 此間を旧法とく
但鬼祿の條不可関論句不
可出其内に独吟上新式の
何ちう

大井門

ちう井
せきさ嫌

尾

上
也

家上の家
きらるべ

峯きらるべし
系 家に入尾の
家なるべきちう二句
ちなみ

かくし山 一座又一山中乃新
いはんとも一ちう山
のかくるべ
又有へし

奥

山外心のかくれこれ
とりかくし
あるかくしこの新式を際限ゆへ
ちう大綱をあくはなりのかう

折ちう葉

ひく一二れ
何也

折ちう一つ
一枝のかう
柳ちうとい

新式目の

かう葉

のかうそ雑也
ちうの新狀也折を
て山同ちう一山上三也 柳
ちうかくし
中に可有
ちうのかう

をかくかを
ちうを冬ちう紅葉ちう
の新狀也折を
柳ちう
柏
ちうの
有為のさかの
ちうに為のやうに

煙草きのうに日新ありてみ
ゝを一四うれと不六煙

おきの声

用ゆ可あ
ゝうせう二る
如奇唯こゝ
煙草

簾

一名夏のうう
一焼原一ゝまゝ煙紙
をうへて有ゝ新武の
何也ゝ四あゝ
八月ゝ三ゝ
ハ月ゝ三ゝ
秋の外他ゝ
四ゝへ不也

狸

ゝうせうせて付へ
不半いゝと右人制
ゝ見れゝ
ゝ仙あゝの下もゝ
ゝうゝいうせゝ
くのゝ

地ゝり一をゝり
用ゆ

蕾

ゝうゝの実花のゝ
よ五白煙ハ新ハ大略二
白の地ゝれゝ
仙ゝ地ゝ煙草也
可用之

おくて田

植ゝ
二白可煙ゝ
ゝの立白煙へ
ゝうゝ稲ゝ或ゝ植

おくひ草

ゝへ地ゝ
状ゝ

おくひ

よ火二白煙ゝ
根白祈くゆゝ
胸のゝ
煙也ゝ
不煙しゝ
用ゝ

おくひの煙

二句略へ

面新 出一巻上

二句略へ

御産 産所

常 衣類

起出

[illegible]

[illegible]

國の海

[illegible]

國の名と

[illegible]

國の名と

[illegible]

[illegible]

雲井の

[illegible]

雲井の

[illegible]

雲井の

雲 [illegible]二月廿四日也 [illegible]
[illegible]の所の [illegible]
い一向 [illegible]れと
[illegible]

[illegible]来 [illegible]に拙と付
て又 [illegible]
付へ [illegible]を他流
[illegible]

拙来 [illegible]
[illegible]

草庵 [illegible]拙拙 [illegible]
[illegible]を拙也 [illegible]
いやすれて又 [illegible]
うへ [illegible]

草乃菴 [illegible]
[illegible]逆懐 [illegible]
[illegible]草下の [illegible]
[illegible]

[illegible]拙 拙拙 [illegible]
[illegible]

[illegible]拙拙 [illegible]
[illegible]

草廷 [illegible]
[illegible]

草廷原 [illegible]
[illegible]

草廷 [illegible]
[illegible]

草廷河 [illegible]
不浴 [illegible]草廷 [illegible]草乃草
廷庵草乃 [illegible]拙 [illegible]
[illegible]
[illegible]

草乃草廷庵 草の草拙
拙拙 [illegible]二月
草の草廷 [illegible]
[illegible]

[illegible]草拙 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水鶏（くいな）夏也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]の字[illegible]句
[illegible]ゆゑ也他
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]